

西南小の風

だれかのために じぶんのために いっしょけんめい

やると決めたら

令和5年12月14日 第33号

それは、六年生を中心に朝の清掃活動が定着しつつあるからです。最近、指示がなくとも掃除が必要な場所を自分たちで探して、黙々と作業をしています。自分たちの朝遊びの時間を差し出して、学校のために働く子どもたちは、合志市中を連れ回して自慢したいくらい誇らしいです。そういう、

さらには、やることになっていないのにやらない状況がまたよくありません。無言掃除をする気、させる気がないのなら、そもそもしない方がいいのです。しかし、無言掃除は、西南中校区での共通の取組でもあります。本校だけがやりませんとはいかないし、本気で取り組みもしないでやめませうというの教師として明らかに敗北。本校職員は今の状態に疑問を抱きながら過ごしてきたことでしょうか！ きつと！ そういうことを考えながら深く自省しつつ、まずは子どもたちに投げかけようと考えました。

と、これを謳っているのです。ただ、その効果は、無言掃除に「取り組めば」ではなく、「出来たら」の話です。だから、これら六つの心を育てる取組のスタートラインにすら立てていないということを、私たち職員は自覚しないといけません。

- ① がんばる心（自分のために）
- ② 思いやりの心（みんなのために）
- ③ 気づく心（みんなのために）
- ④ 工夫する心（自分のために）
- ⑤ 感謝する心（みんなのために）
- ⑥ 正直な心（自分のために）

どれも大切なことです。掃除を一生懸命やるだけでもこれらの効果は見込めるでしょう。しかし、無言で黙々と取り組むことによってさらなる効果が見込まれる

これは、我々職員の戒めです。昼休みが終わる頃、「今から無言掃除が始まります」と、水曜以外は放送され、十五分間の無言掃除になるはずが、なかなか無言掃除になりません。すでに九ヶ月この状態な訳です。これまでに児童会委員会による無言掃除パトロールも実施されています。つい先日、本校の研究の一環として無言掃除充実のための動画が作成されました。このように何もせずただ手をこまねいている訳ではない側面ももちろんありますが、無言が習慣となる等の根本的な改善、定着につなげていません。無言掃除の目的は、生活ノート等に次のように明記され、年度当初に確認しています。

子どもたちの姿を、他の子どもたちも見ています。登校してきた通りすがりの子どもたちの中には、「いつもありがとうございます」と言ってくれる子の他に、「何してるの?」と聞いてくる子が少なくありません。おそらく何をしているのが本当に分からない子はいません。自分も何か手伝いたいけど、それが照れくさくて言えないのだろうと思います。そういう子たちの中には、ランドセルを背負ったまま落ち葉を素手で拾い集めてくれる子もいます。そんな西南小の子どもたちですから、無言掃除ができないわけがないと思うのです。

十二月六日（水）のオンライン児童集会で投げかけました。某筋肉芸人よろしく「無言掃除、できるのかい? できないのかい? どっちなんだい? でき!」の問いかけに、「るううう!」という声をもらいました。ま、「ない」とは言えない場面ではありますが、これはきつかけです。その日から、日々掃除の時間に校内を巡回しています。児童集会直後は著しい変化があり、場所によっては黙々と掃除をする姿がありました。巡回する私の姿を見かけて、無言掃除を思い出す児童も少なくありません。教室掃除は学級差がありません。黙って掃除をする学級に学年は関係ありません。低学年でも黙って集中している学級もあれば、高学年でザワついてる学級もあります。また、掃除の音楽が『天国と地獄』（運動会での伝統的なBGM）というのも、何だか急かされて自分の動きが早送りになる感覚でミスマッチです。

日々の評価を円グラフにして児童昇降口に示していますが、その認知度はまだまだです。私自身の声かけやさらなる動機付け、そして職員の共通理解が足りません。無言清掃している児童は、現状多いときで五〇六割程度です。（あくまで私が見た感覚）令和五年中に九割以上の無言掃除を職員、児童で経験するのが当面の目標です。そこが、遅まきながらの再スタートラインです。

子どもたちの姿を、他の子どもたちも見ています。登校してきた通りすがりの子どもたちの中には、「いつもありがとうございます」と言ってくれる子の他に、「何してるの?」と聞いてくる子が少なくありません。おそらく何をしているのが本当に分からない子はいません。自分も何か手伝いたいけど、それが照れくさくて言えないのだろうと思います。そういう子たちの中には、ランドセルを背負ったまま落ち葉を素手で拾い集めてくれる子もいます。そんな西南小の子どもたちですから、無言掃除ができないわけがないと思うのです。

